# 第２学年国語科学習指導案

１　単元名　とっておきのはつめいをしょうかいしよう　－あったらいいな、こんなもの－

２　本時のねらい

「あったらいいなドラえもんの道具」発表会の経験を活用し、話し手は自分で考えた「あったらいいなこんなもの」について、相手に分かるように話し、聞き手は相手の話に対し興味をもって聞き、対話を通してお互いの発明品の説明がよりよいものになるよう助言し合うことができる。

３　準備物

【教師】対話のヒントカード、自己評価カード

【児童】自分が考えた発明品の絵

４　展　開

| 学習活動・内容（時間：分） | 教師の働きかけと評価（評価方法） |
|---|---|
| １　前時の学習を想起させ、対話の仕方を確認する。（10）<br>・対話の仕方<br>・よりよい発明品にしようとする意欲 | ○　発明品の説明をだれにでもよく分かるようにするための対話である、という意識をもたせるために、自己評価カードを基に、前時の学習を振り返らせる。<br>○　対話の望ましい行い方を把握させるために、前時の学習でうまくやり取りを行っていた二人組に対話をさせる。 |
| ぼく・わたしの発明品をだれにでもよく分かるように説明しよう。 | |
| ２　グループで、発明品について話し合う。（30）<br>・分かりやすく伝えるための工夫<br>・よりよい発明品の説明にするための助言<br>◎あったらいいなと思うもの（**名前**）<br>◎どんなもの（**形、大きさ、重さ、色、音、におい、使い方**）<br>◎こんなことができる（**どんなことができる、べんりなところ**）<br>・対話することの楽しさ | ○　グループ内で、二人は対話を行い、その他の子どもは対話の様子をモニタリングするという役割分担をして、話し合わせる。<br>○　聞き手の質問の手掛かりにするために、発明品の説明を詳しくするための観点が書いてあるヒントカードを用意する。<br>○　友達の助言を参考にして、発明品の説明の変更点を絵に書き込むように促す。<br>○　後半の対話への意欲につなげさせるために、モニター役の子どもに、その対話のどこがよかったか、またはどうすればもっとよくなるかを発言させる。<br>㊟　話し手は相手に分かるように話し、聞き手は相手の話に対し興味をもって聞き、発明品の説明がよりよいものになるよう助言できる。<br>（絵、話合い） |
| ３　本時の学びを終えての感想やめあての振返りについて発表し合う。（５）<br>・対話のよさ<br>・よりよい発表となる楽しさ | ○　学びの状況を振り返る評価カードを活用し、よりよい発表となった喜びなど、学びのよさをとらえ称賛することで、自分たちで学びを創るよさを実感させる。 |